

2008年9月28日

に都内で、(社)日本介護福祉士会主催の「人材確保対策全国集会」が開催されました。

会場では、「人材不足は限界の状況」、

「生計が立てられる給与の保障」、

「介護者が幸せじゃなければ、利用者も幸せになれない」などの意見が出ていたようです。どの意見も、現場の声として貴重であり、共感できます。ですが、何か違和感を覚えてしまうのは私だけでしょうか？

鉢巻にプラカードを持ち、皆で「エイエイオー！」を感じさせる雰囲気。私も、福祉業界に従事している者として同じ課題を抱えています。しかし、こういう集会に参加しようとは思えないのです。

何か違ったアプローチがあるのではないかと

憧れの職になるために

下の世代が「楽しそう」と思える姿を見せよう

第10回

アカルイ介護ビジネス

若手経営者の新手法



はっぴーライフ代表取締役社長 出川 麻史
1978年1月生まれ、東京都出身。日本福祉教育専門学校卒業。老人ホーム、在宅会社の勤務を経て2002年(株)はっぴーライフ設立。2008年(株)エイチエール設立。同年、デイサービス検索サイト「デイケンサク」(www.daykensaku.com)を開発。ブログのURLはhttp://ameblo.jp/eichi-eru

昨年12月に、ある出版社の編集長さん、介護関係の女性社長さん、労働組合の方、介護関連の社長と忘年会をしました。

その際の会話です。

「あの集会の目的は理解できませんが、鉢巻にプラカードでの集会では、若い世代や、福祉に興味ある人が敬遠しませんか？専門学校で卒業後、福祉の職に就きたいが親が反対している、福祉の専門学校に入学したいが進路指導の先生が勧めない、などの話を実際に伺っています。人材離れに拍車をかけて

まうこともありませんか？」という意見を言わせて貰いました。

すると同席していた社長が、とても面白い発想の事を言ってくれました。

「そうだね。あれは、まず、プラカードがカッコ悪い！あれをカッコよくしたいね。あと、鉢巻もカッコよくしてね」

納得です。「夢を与える、希望の持てる」集会にした方が明るいイメージになりませんか？大変な時に「大変」「辛い」「困った」、等のネガティブワードを発する

のは簡単です。しかし、同じ声を上げるなら明るく行った方が、自分も気持ちよくなると思いませんか？

◆◆◆
40代、50代の方は、その下の20代へ、30代

の人は10代の世代へ向けて、日本の福祉を担っていく人材の手下になるべきだと思えます。そのためにはどうしたら良いのでしょうか。

私の5歳になる娘はアニメの「プリキュア5」になりたいそうです。理由を聞いてみました。

私「何でになりたいの？」
娘「いつも笑ってるんだよー」
私「笑ってるのが好きなんだ？」
娘「楽しそうに見えるもん！」
思い出しました。

自分も憧れたり、なりたかったりしたものは、生き生きとした姿を見た時、カッコイイ姿を見た時、一生懸命な姿を見た時だったように感じます。

苦難で愚痴を言う、「母をたずねて三千里のマルコ」を見たいですか？

大変な時に自暴自棄になる「フランダーズの犬のネロ」を好きになれますか？

何故、あれだけの名作になったか？少し考えてみて欲しいのです。福祉の仕事は、素晴らしい所が沢山あると思えます。それを伝える事が大事なのに、マイナス部分に焦点を当てる行動が多くなると衰退を招いてしまうと思えます。

福祉業界の良さが伝わるように頑張りたいと思います。